



速報第12号
発行
富山国際大学附属高校 新聞部
富山市願海寺444
E-mail:
press@tuins-h.ed.jp



中3生 G7教育相と意見交わす

G7 EDUCATION MINISTERS' MEETING IN TOYAMA AND KANAZAWA
富山・金沢 教育大臣会合

各国の大臣の前で堂々と意見を述べる中3生＝富山国際会議場



未来の教育について提言

G7教育相会合2日目の5月13日、富山市の富山国際会議場に各国の大臣や政府関係者と富山、金沢両市内の中学3年生達が集まり、「より良い未来」をつくるために意見を交わした。石動高校新聞部とともに特別に許可をもらい、取材した。

会場前には各国の国旗が掲げられ、周辺にも会合のフラッグが並んで歓迎ムードだった。

3月に「富山・金沢こどもサミット宣言書」を作った中学生が両市から5人ずつ参加し、各国の大臣らに宣言書の趣旨などを英語で紹介。この宣言書は「①夢や目標を持ち、自分の良さや可能性を生かします②多様性を受け入れ、他者を理解・尊重します③住みやすく、誰もが誇れる街をつくりまします④持続可能で幸福な社会を実現し

ます⑤100年後の明るい未来のためにバトンをつないでいきます」といった内容で、その後、各国の大臣ら10人から「公務員になりたいか」や将来の夢などを質問され、10人の中学生が日本語で丁寧に応じた。「未来の教育はどうあるべきか」とイギリスの代表が聞いたのに対し、女子生徒は「個人に合わせた教育がされたい」と思う」と答えていた。

この教育について、これからどんな授業を受けたいか、どんなことを考えていきたいか」と質問を投げかけると「総合的な学習の時間に姉妹校について調べていて、つながりを大切にしてほしい。教科書だけでは学べないことをオンラインを利用して学べるのはいいことだと思う」としっかりした答えが返ってきた。

中学生達は立派な宣言書を作り上げ、各国の大臣に未来の教育について提言するまで考えていたことに驚かされた。私たちも高校生なりにアフターコロナの教育について考え提案していきたい、コロナ前よりも意欲的に高校生活を送るためには何ができるのかを探していきたい。

【金岡拓海】